

表面処理技術のさらなるグローバル展開をめざして



2008年3月期
中間決算説明会用資料

荏原ユーヅライト株式会社

代表取締役社長 粕谷 佳允

2007年11月13日(金)

<http://www.eu.ebara.com/>



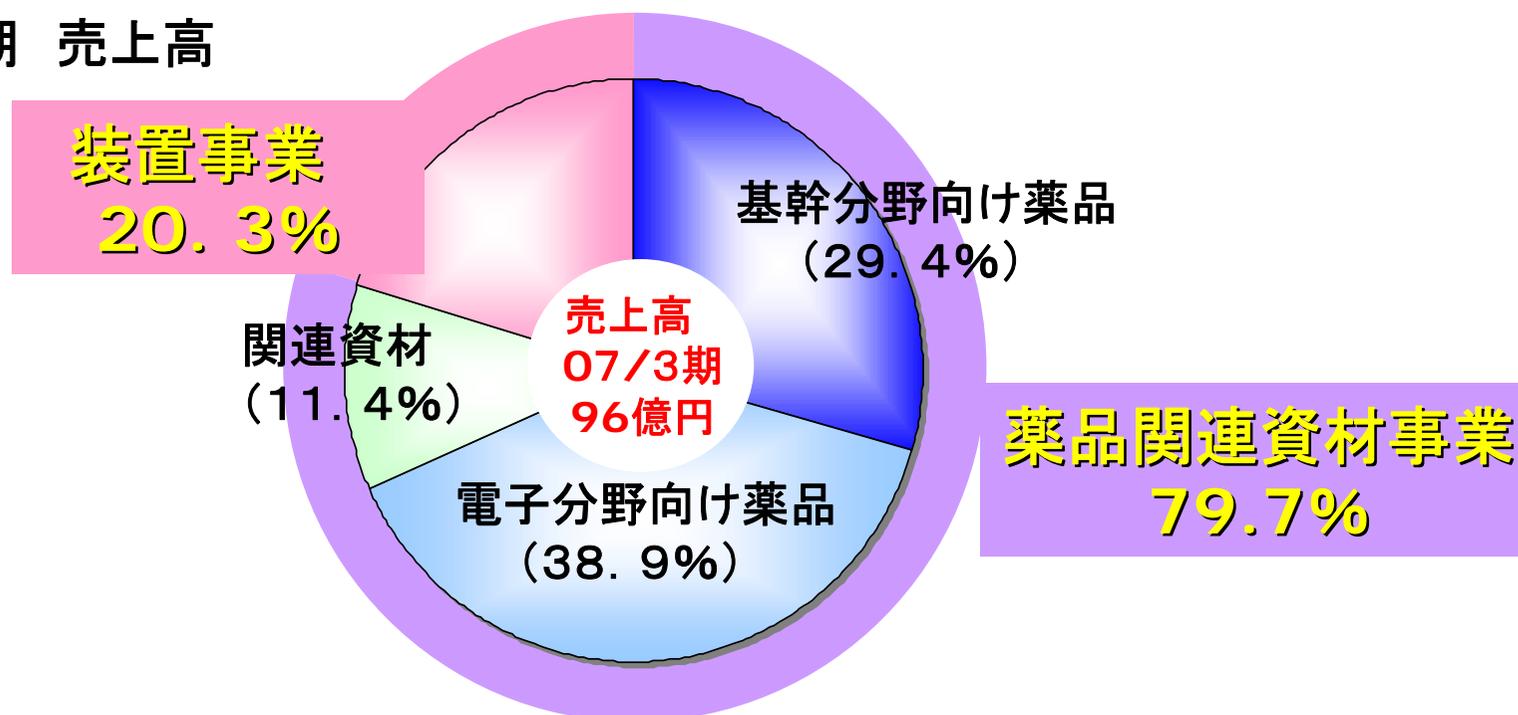
会社概要

年月		事業の変遷
1957年	創業	米国ユージライト社製品の輸入販売開始(二輪・四輪向け)。
1968年	設立	荏原グループ 55%、ユージライト社(現:エンソン) 45%出資。 製品の国産化開始。
1970年代		エレクトロニクス分野に参入。
2001年3月		エンソンとの技術援助契約を終結。
2003年9月	MBO	経営陣が荏原製作所、エンソンの両社から株式を買取り。 成長する中国市場へ販路を拡大し、飛躍的發展を目指す。
2005年12月	IPO	東京証券取引所市場第二部 上場
2007年3月		東京証券取引所市場第一部 指定

事業内容と事業セグメント



2007年3月期 売上高



08/3月期 中間決算の概要

国内

海外

エレクトロニクス 産業

- デジタルカメラ、携帯電話向け等のパッケージ基板が堅調に推移
- ビルドアップ基板用薬品の売上が増加

- 台湾においては在庫調整の影響により、パッケージ基板市況が低調
- 韓国ビルドアップ基板用薬品の売上が増加

自動車産業

- 国内向け生産は低調
- 海外向け生産は好調
- 国内総生産台数は微減

- 中国自動車市場の成長は継続
- 中国における薬品売上は15%増加
- 韓国現代自動車向け薬品は増加

08/3月期 中間期の概況(連結)

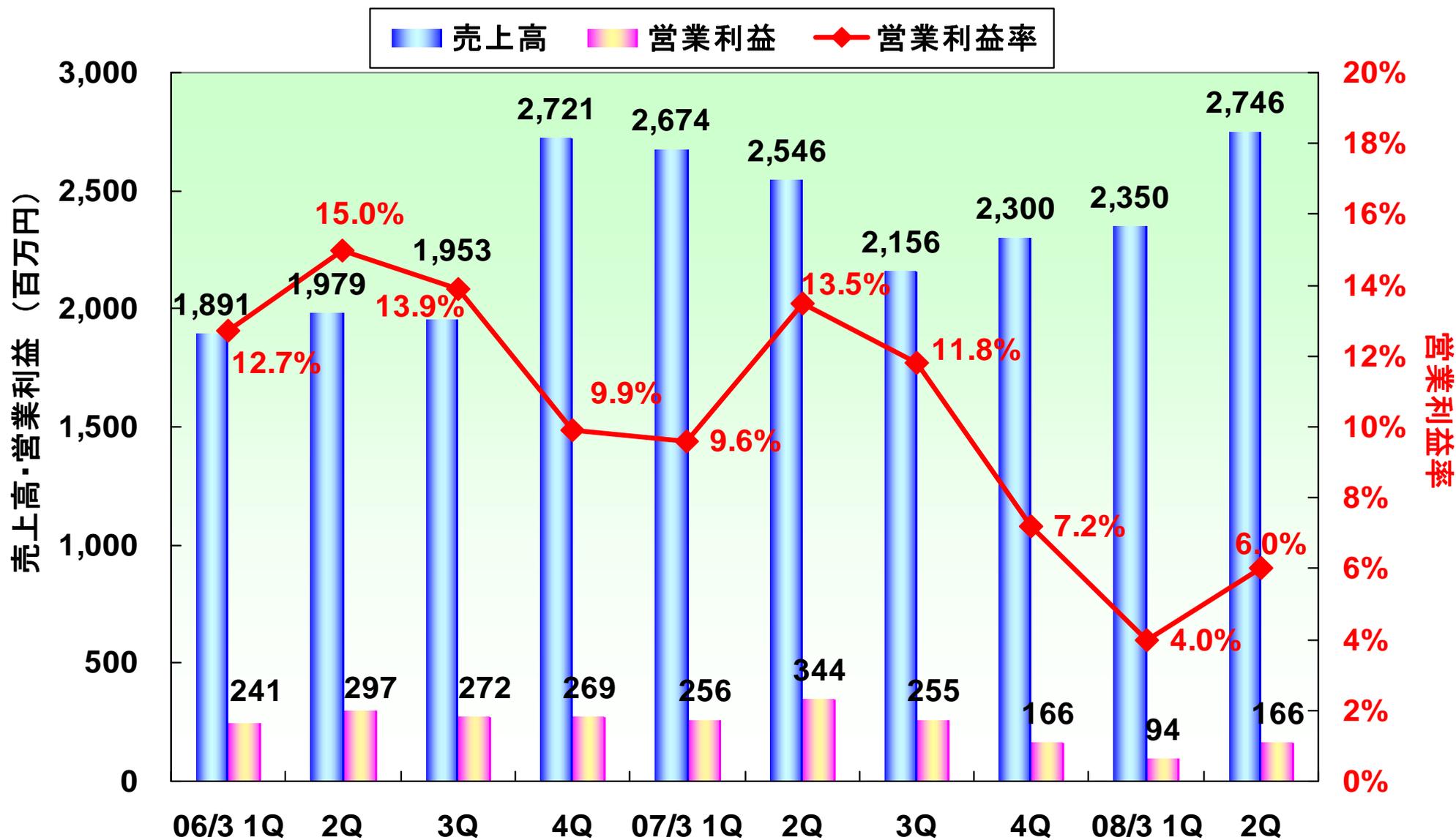


(単位:百万円)

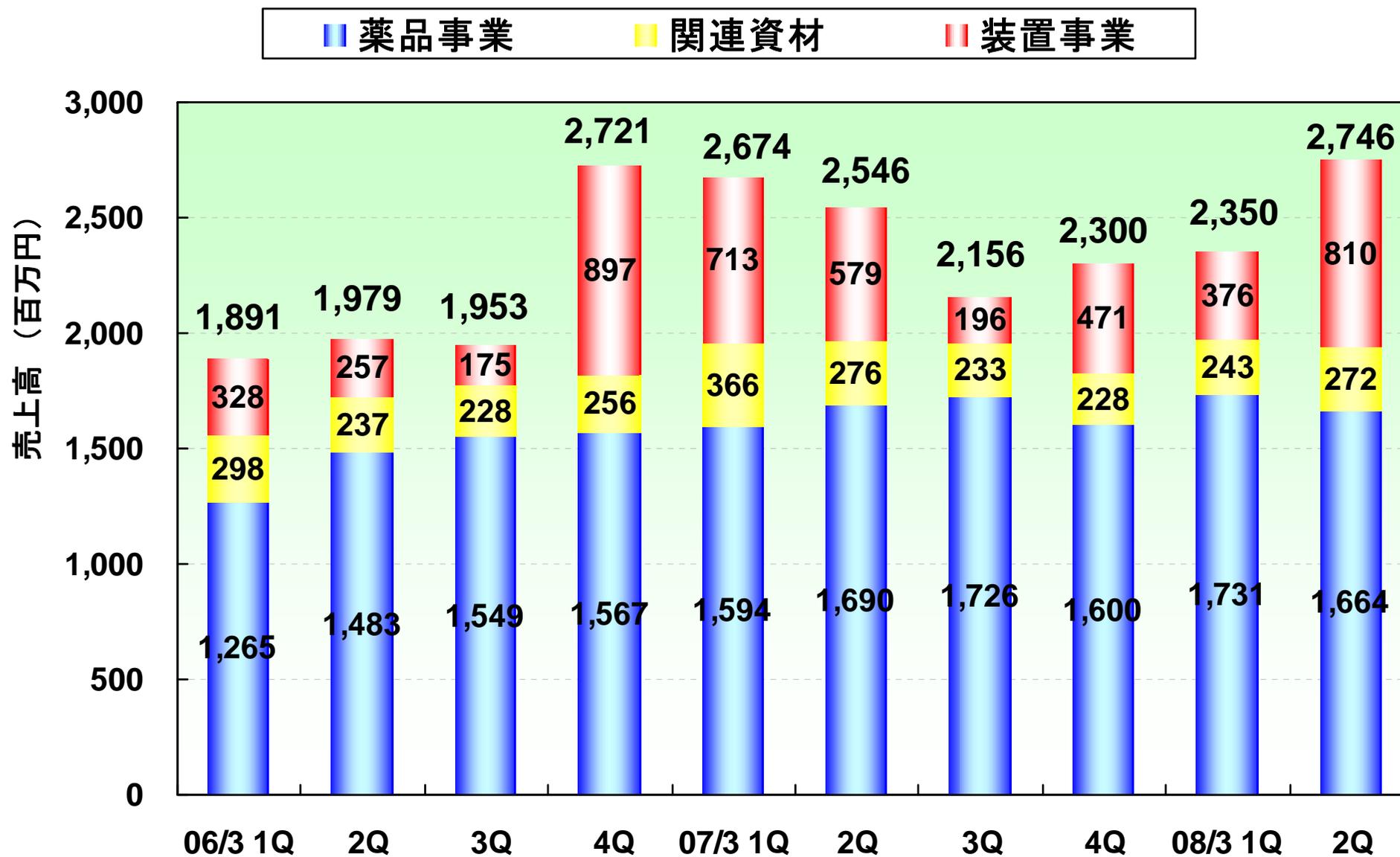
	07/3月期 2Q(参考)	08/3月期 2Q	対前年比 増減(%)	07/3月期 中間(参考)	08/3月期 中間期 ※注	対前年比 増減(%)
売上高	2,546	2,746	7.9	5,220	5,097	△2.4
売上総利益	1,187	1,147	△3.4	2,284	2,278	△0.3
販管費	843	980	16.3	1,683	2,016	19.8
営業利益	344	166	△51.7	601	261	△56.6
経常利益	347	145	△58.2	590	261	△55.8
税引前利益	346	150	△56.6	601	268	△55.4
当期利益	202	61	△69.8	345	108	△68.7

※注: 08/3月期中間期は台湾及び韓国の9月の売上は現地法人化に伴い、連結されません。

売上高・営業利益・営業利益率の推移

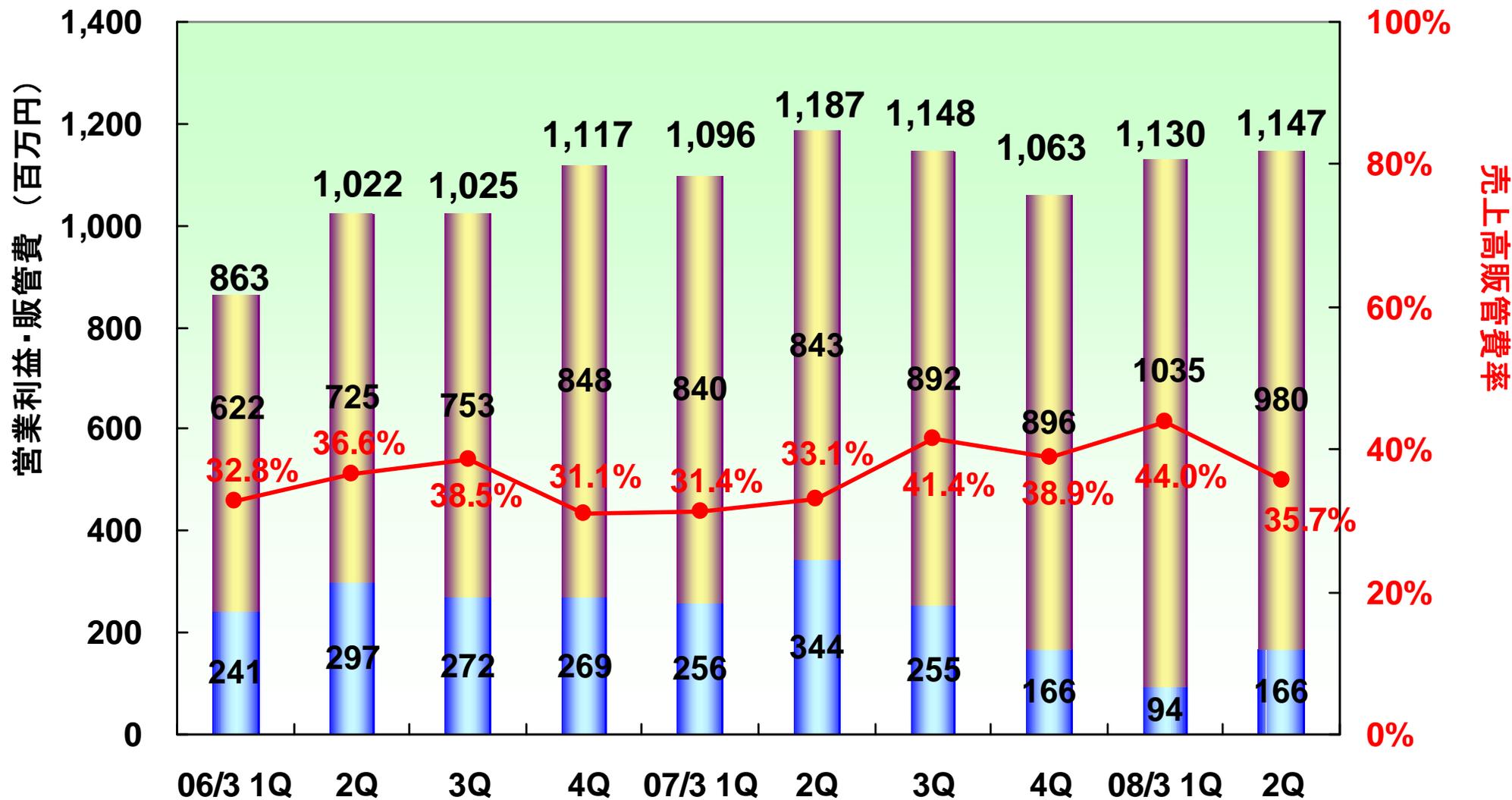


セグメント別売上高の推移(連結)

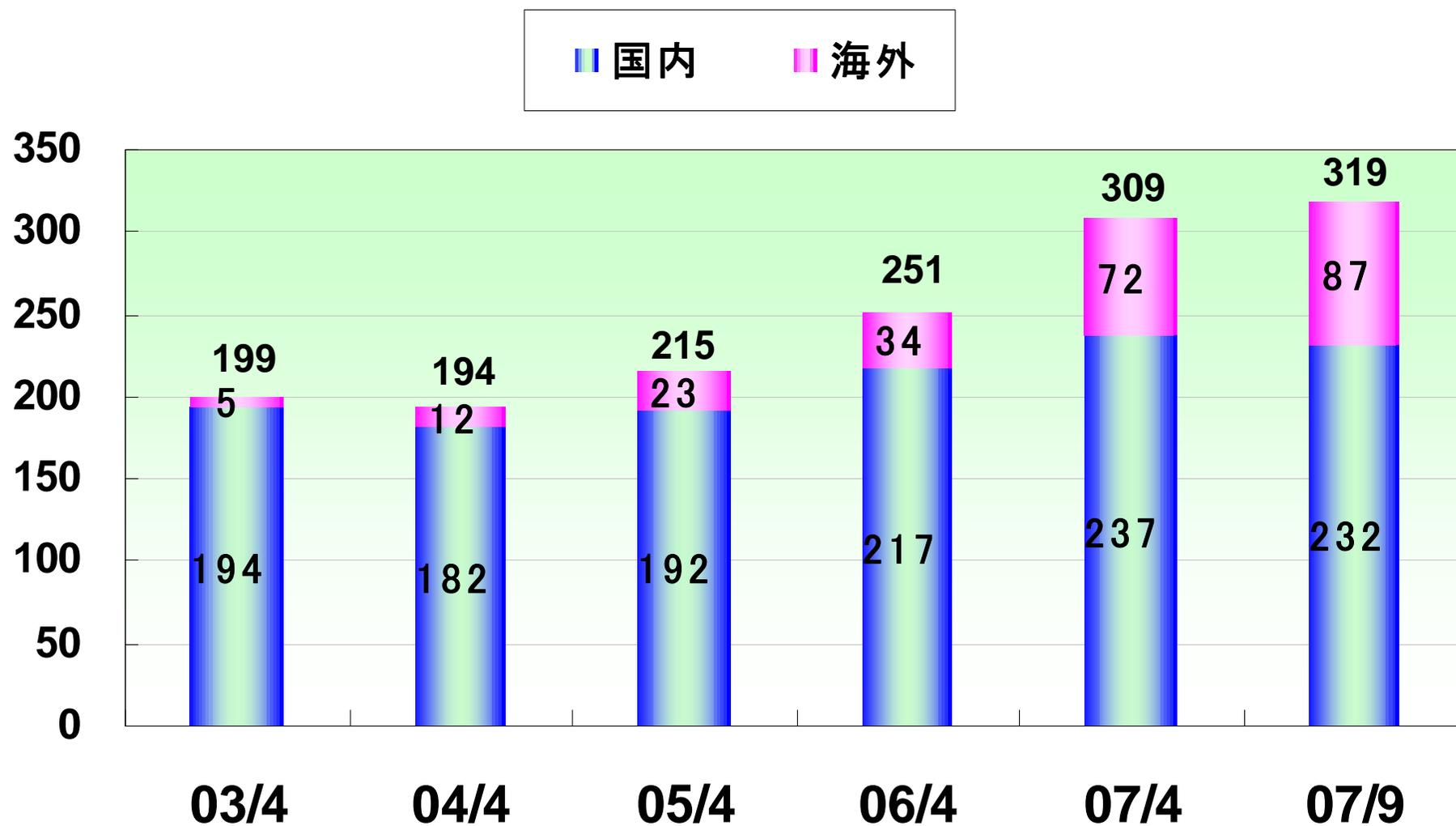


営業利益及び販管費の推移

■ 営業利益 ■ 販管費 ● 売上高販管費率



人員数の推移



貸借対照表 要約 (連結)



(百万円、%)	07/3月		07/9月		対07/3月 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	5,912	62.1	6,852	61.2	940
現金及び預金	1,648	17.3	1,805	16.1	157
受手及び売掛金	2,984	31.3	3,467	30.9	483
固定資産	3,606	37.9	4,339	38.8	733
有形固定資産	2,855	30.0	3,079	27.5	224
投資その他の資産	726	7.6	1,236	11.1	510
資産合計	9,518	100.0	11,191	100.0	1,673
流動負債	3,412	35.9	4,325	38.7	913
支手及び買掛金	1,901	20.0	2,787	24.9	886
固定負債	829	8.7	1,550	13.8	721
負債合計	4,242	44.6	5,876	52.5	1,643
純資産(資本)合計	5,275	55.4	5,315	47.5	40
負債・純資産合計	9,518	100.0	11,191	100.0	1,673
自己資本比率	55.4%		47.5%		

キャッシュ・フローの状況（連結）



(百万円)	06/9月	07/9月
営業活動によるキャッシュフロー	131	18
投資活動によるキャッシュフロー	△303	△812
財務活動によるキャッシュフロー	△194	910
現金及び現金同等物の期末(中)残高	1,970	1,805

営業活動

税引前中間純利益	268百万円	売上債権の増加	461百万円
たな卸資産の増加	284百万円	法人税等支払	207百万円

投資活動

有形固定資産取得による支出	234百万円
投資有価証券取得による支出	616百万円

財務活動

株式の発行収入	19百万円	長期借入金の返済	230百万円
配当金の支払	78百万円	長期借入	1200百万円

08/3月期 通期事業計画

下期事業環境の見通し



国内

海外

エレクトロニクス 産業

- パッケージ基板の生産は回復基調へ

- 台湾のパッケージ基板生産が回復
- 中国での新規顧客開拓に期待

自動車産業

- 国内販売は横ばい
- 輸出は好調に推移し、生産台数は横ばいの見込み

- 中国は引き続き成長維持（2010年1千万台生産へ）
- タイにおける需要の拡大を見込む。
- アジアにおける亜鉛めっきビジネスへの参入

08/3月期事業計画(連結)(2007年10月26日修正)



(百万円)	07/3月期	08/3月期 計画 ※注		対前年比(%)
			対売上比(%)	
売上高	9,677	10,000	100.0	103.3
売上総利益	4,496	4,660	46.6	103.6
販管費	3,472	4,200	42.0	120.9
営業利益	1,023	450	4.5	43.9
経常利益	1,008	410	4.1	40.6
当期利益	911	200	2.0	21.9

セグメント別売上計画(連結)

単位:百万円(前年比)

薬品関連資材事業	自社薬品	6,850(3.6%増加)
	関連資材	1,030(6.7%減少)
装置事業		2,120(8.1%増加)

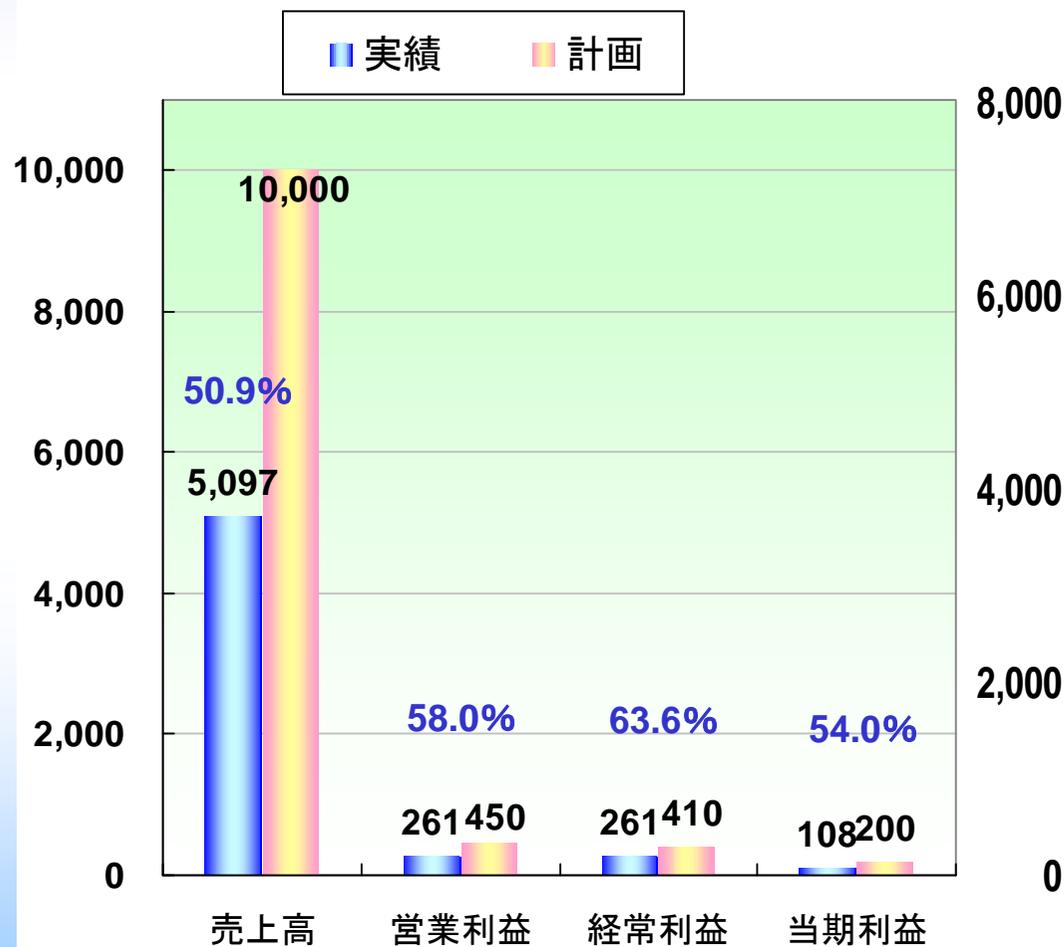
※注: 08/3月期は台湾及び韓国の08年1月、2月、3月の売上は現地法人化に伴い、連結されません。

08/3月期 進捗状況

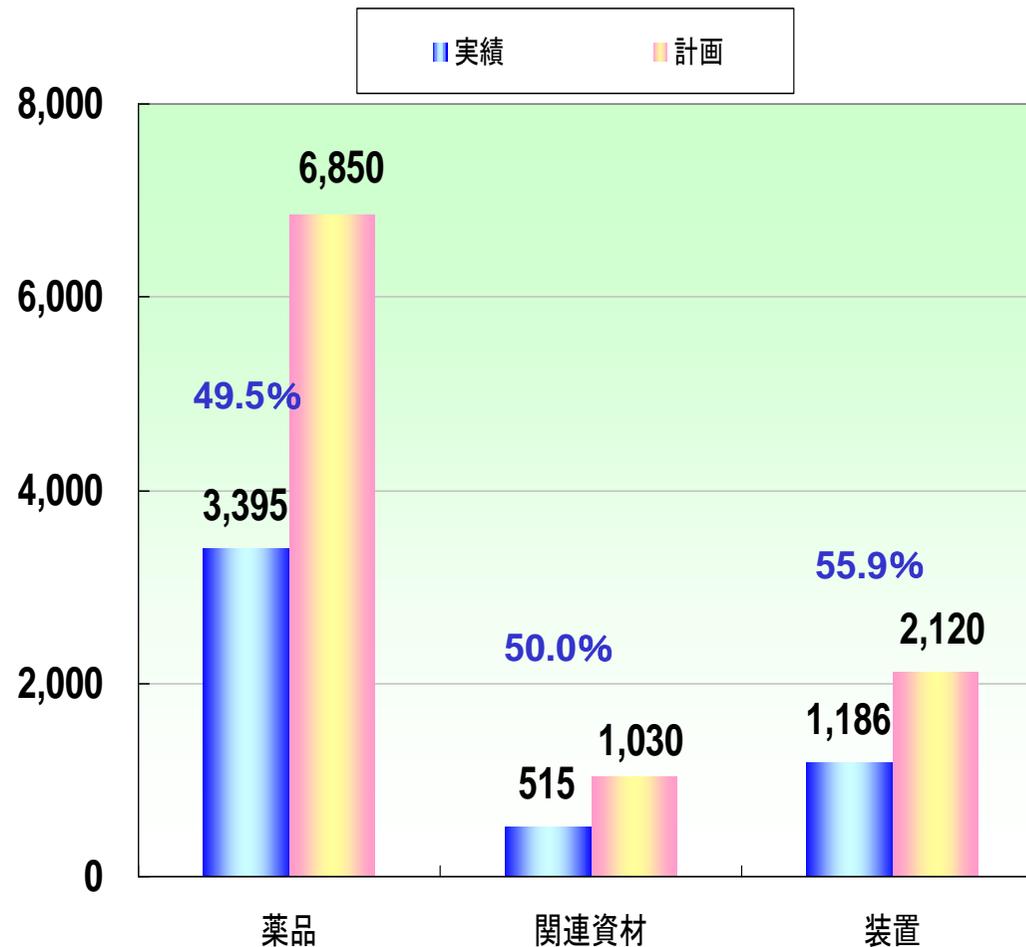


(単位:百万円)

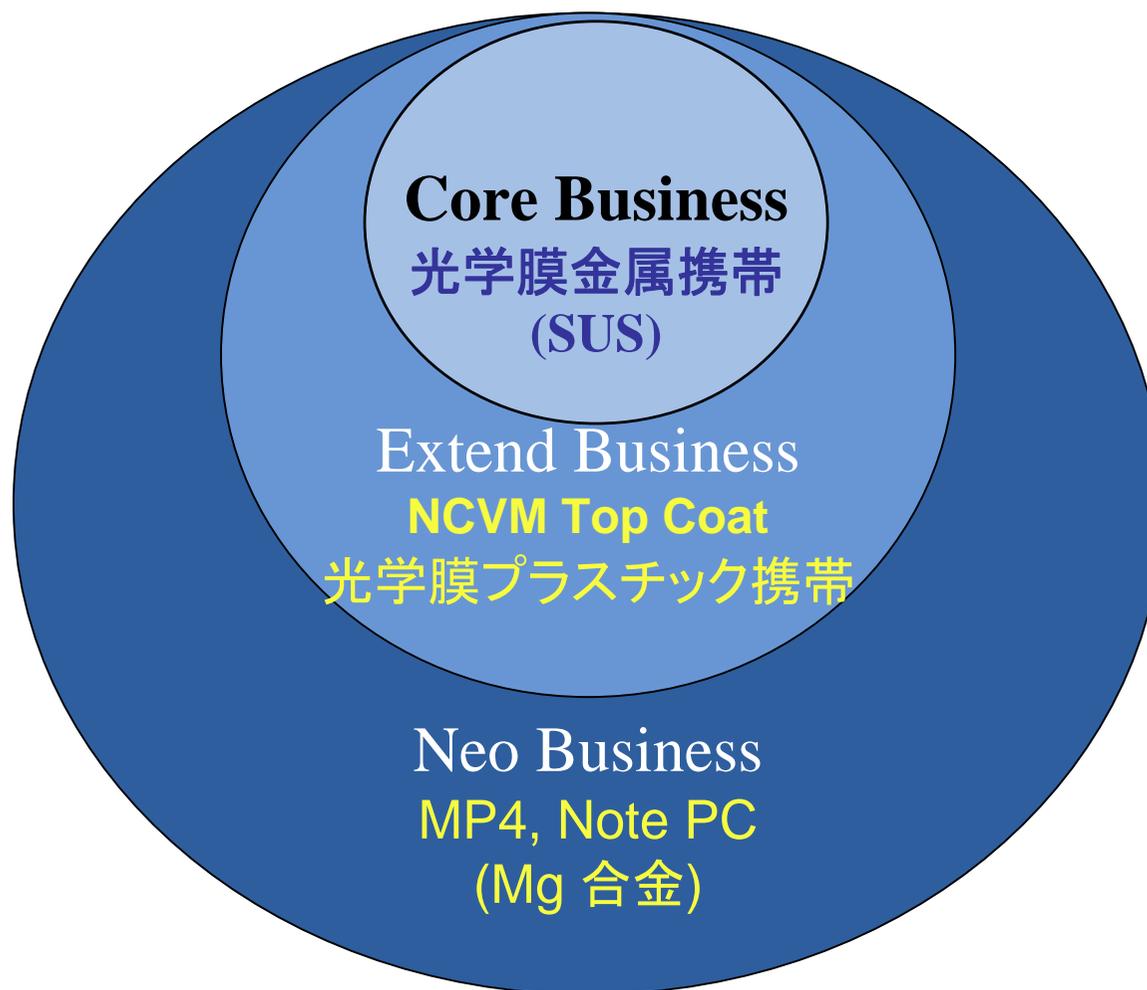
売上・利益 目標達成状況



セグメント別売上高目標達成状況



技術漏洩という点から、単なる装置販売から加工業へと転換



08/3月期下期の取組み 亜鉛めっき事業



米国亜鉛めっき専門メーカーとの提携

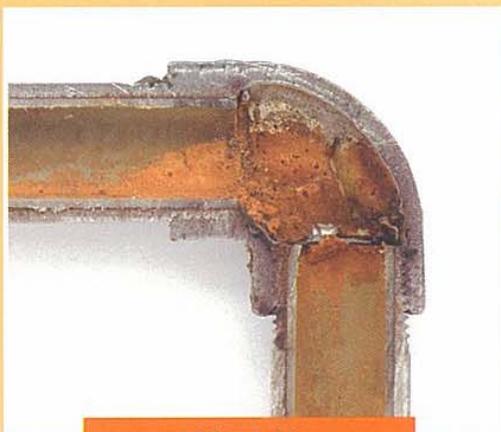
- コロンビアケミカル社との資本及び技術提携により、新興各国における亜鉛めっきビジネスを展開
- コロンビアケミカル社は、北米において当社樹脂めっき用薬品を製造販売



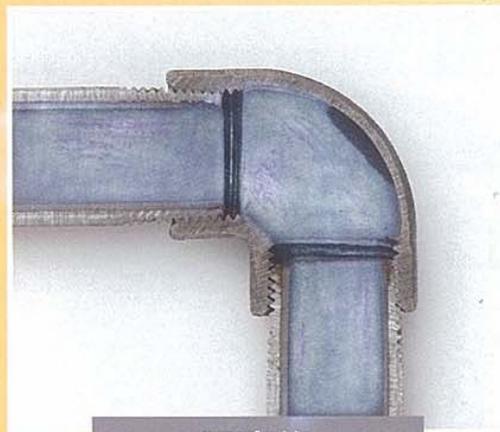
韓国赤水問題の解決

給水管ライニングでリフレッシュ

給水管ライニング工事を行うと給水管がよみがえります。



施工前



研磨後



ライニング後

08/3月期上期の研究成果



● 社団法人日本エレクトロニクス実装学会からJIEP賞を受賞しました。

● 社団法人日本電子回路工業会からJPCA賞を受賞しました。

総合研究所(川崎市)

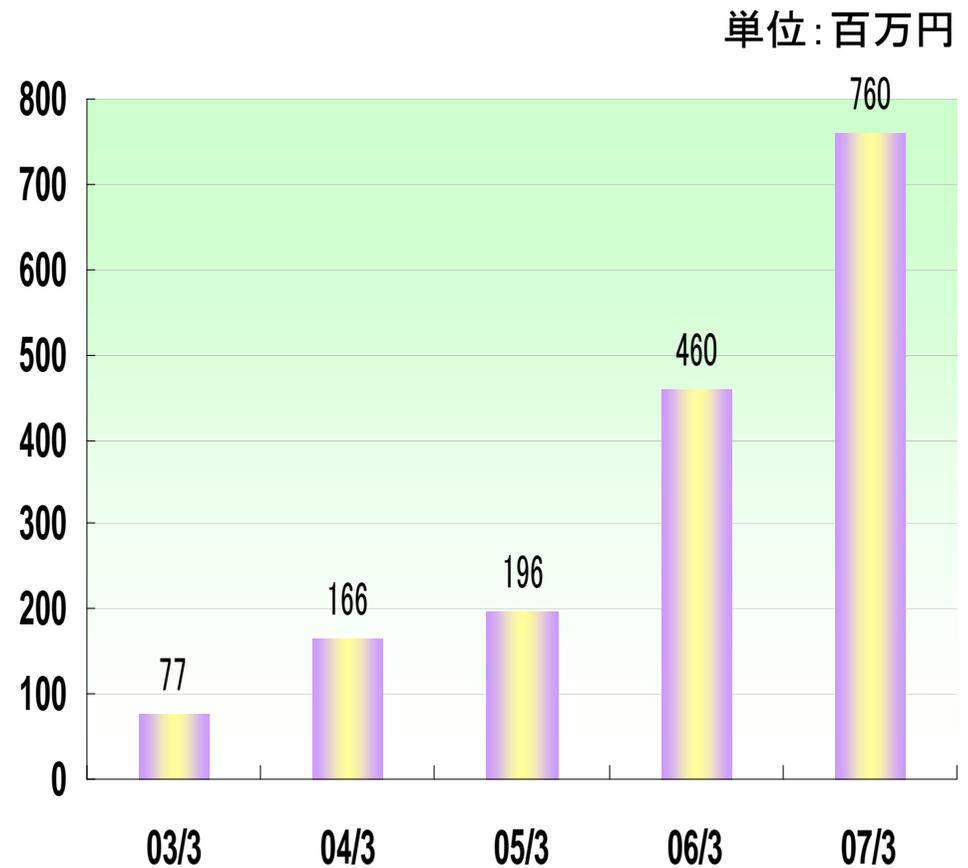
08/3月期上期の研究成果 ビアフィル技術



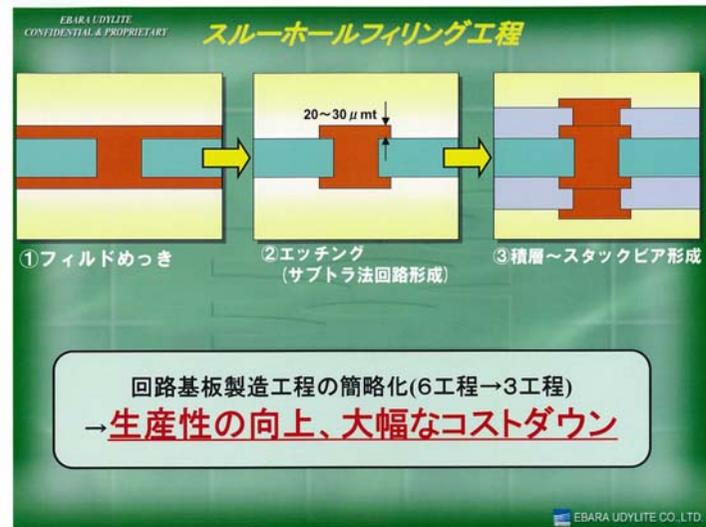
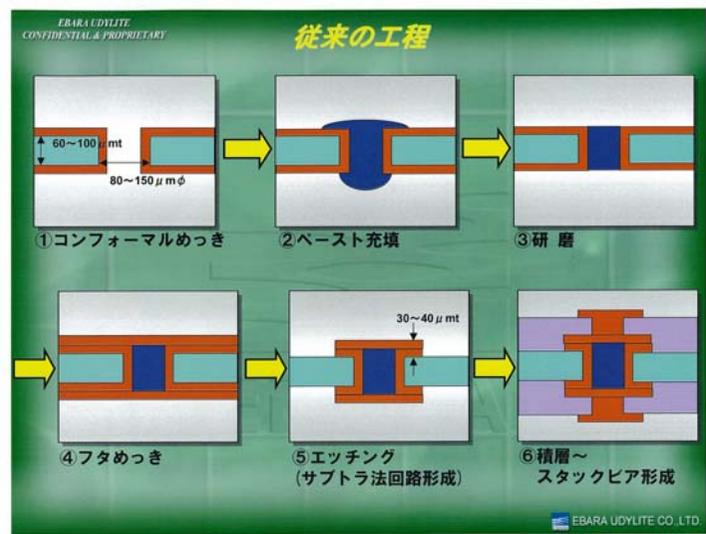
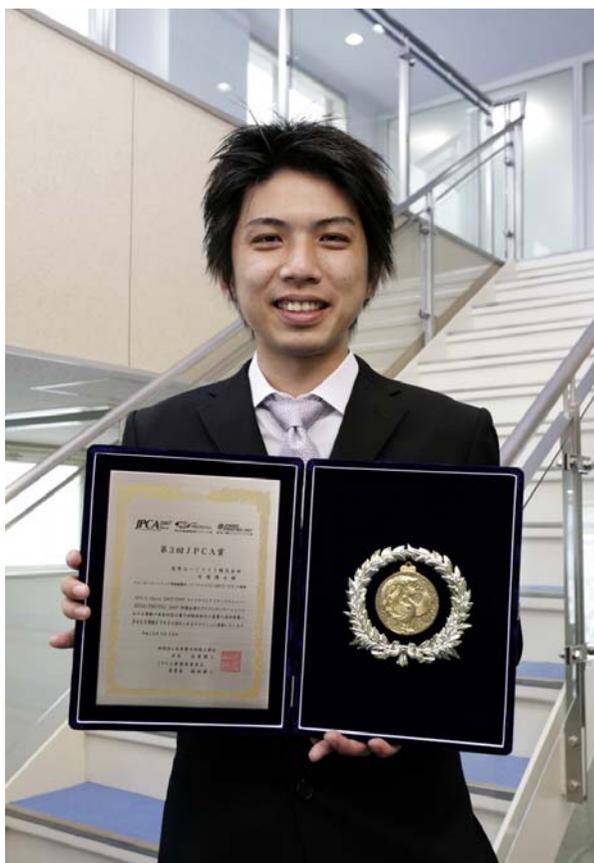
エレクトロニクス実装学会技術賞



ビアフィル用薬品の売上高推移



JPCA賞

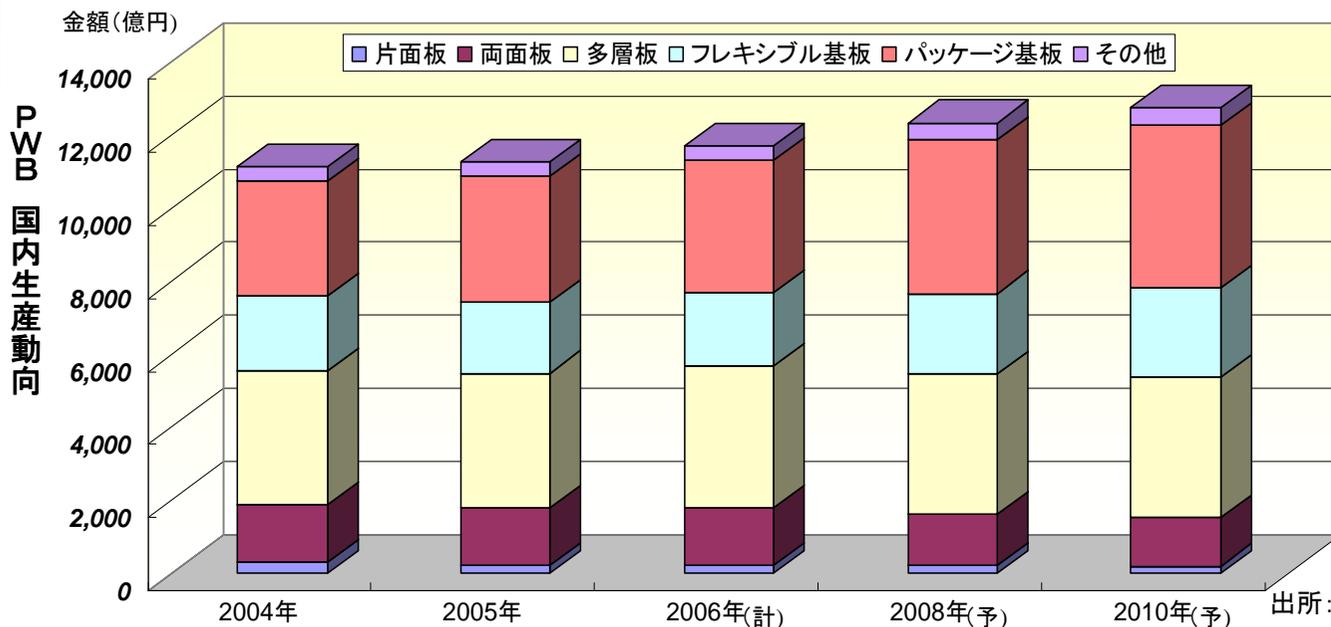


08年3月期中間・期末配当予想

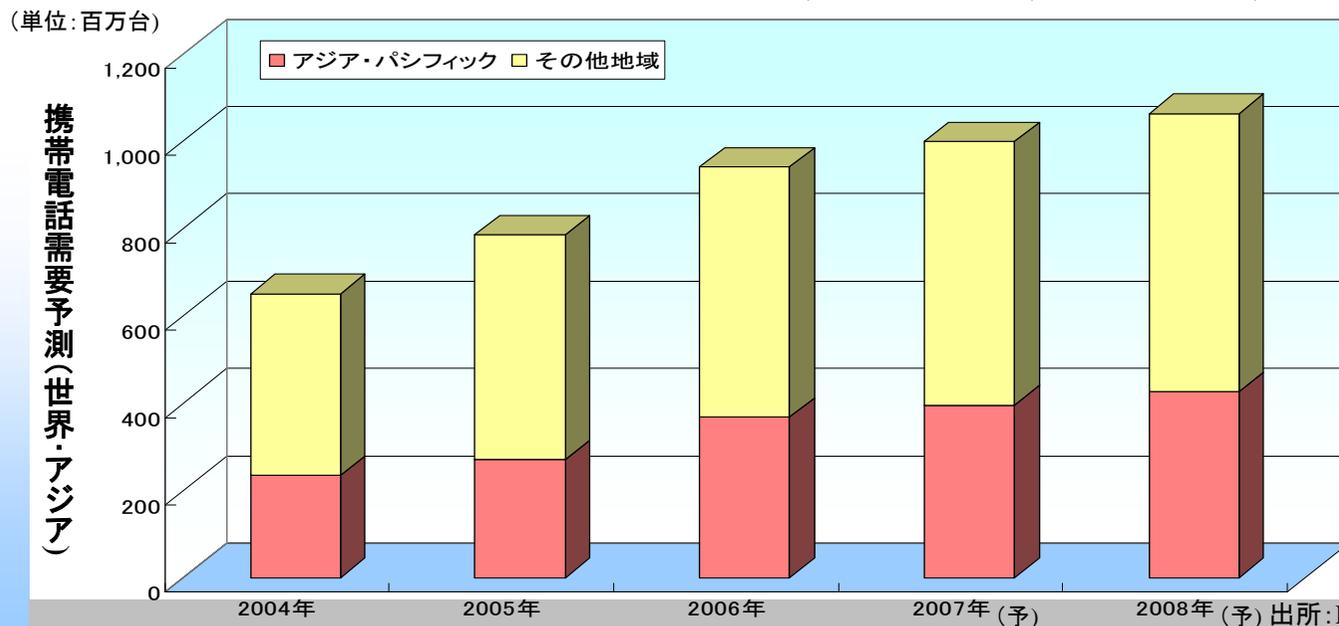
業績予想の下方修正を行いました。配当は変更しません。
今後も、業績に応じて積極的に株主様への還元を行っていく方針でございます。

	1株あたり配当金		
	中間	期末	年間
平成20年3月期	30円	30円	60円
平成19年3月期 (前期実績)	15	25円	40円

【参考】PWB生産動向及び需要



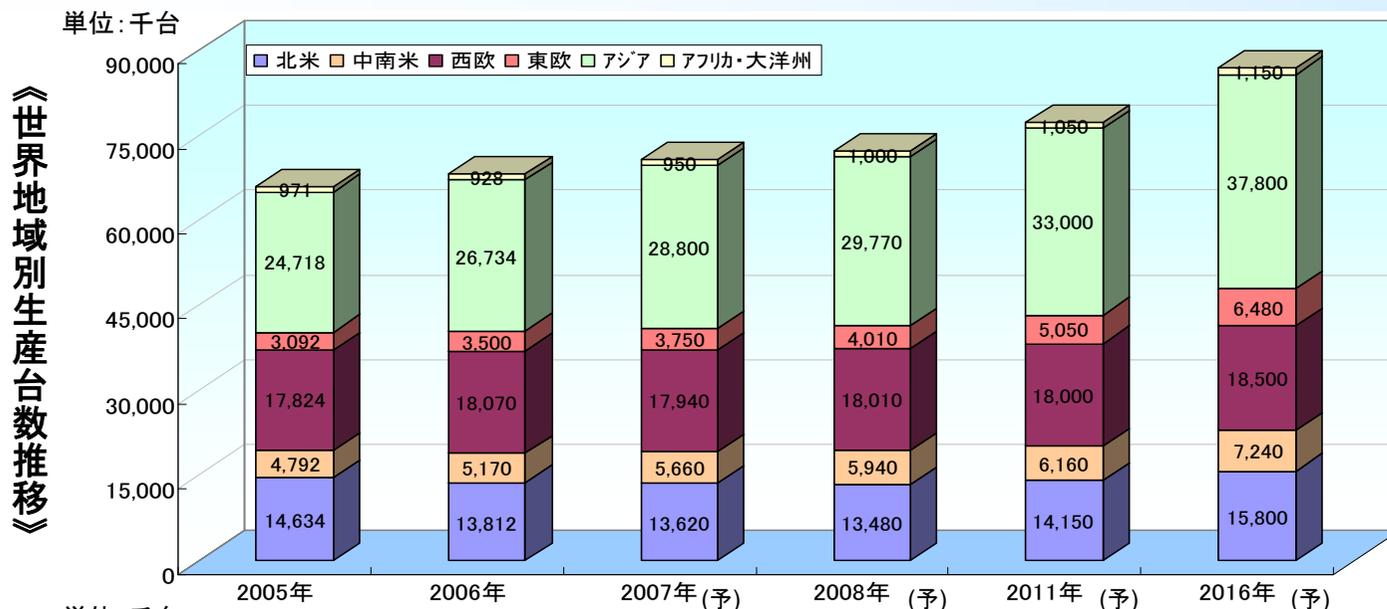
国内では、最先端技術品を中心とする半導体パッケージ基板、8層を超える多層板やビルドアップ基板が伸びる見通し



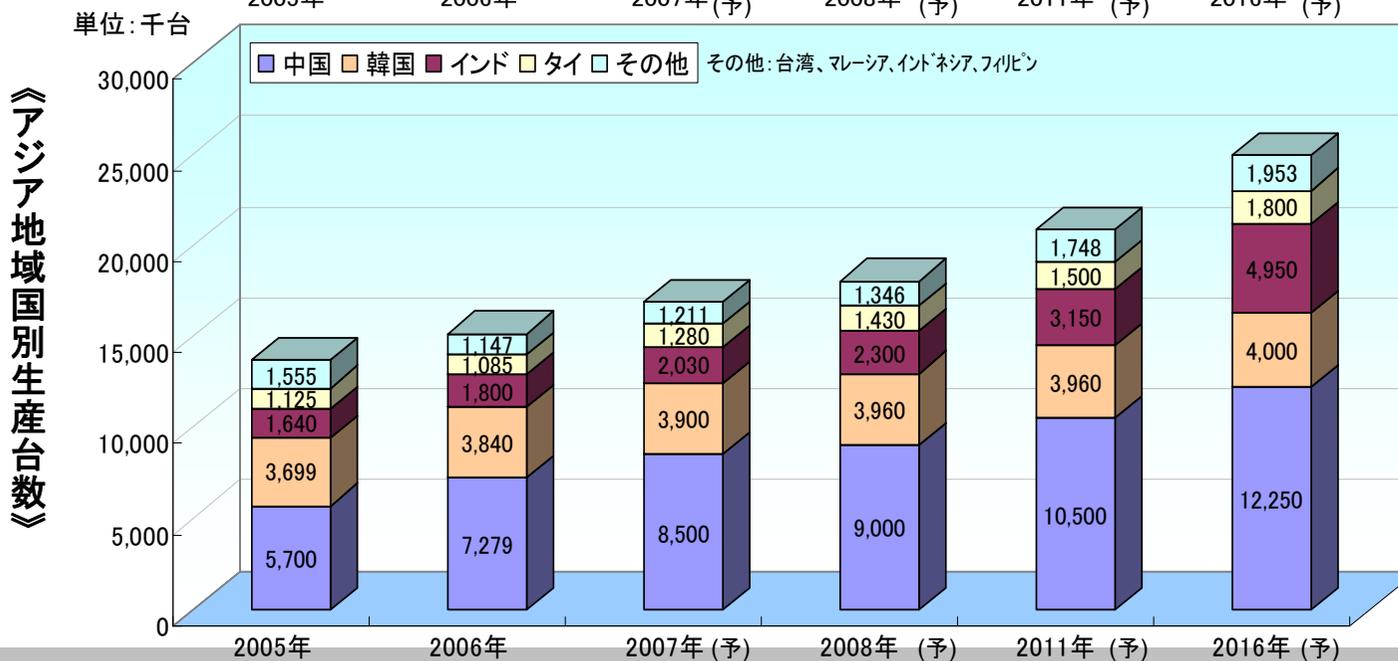
日本ではすでに成熟市場である携帯電話は、中国・インドを中心とするアジア・パシフィック地域での需要が見込まれる。

【2008年 世界需要】
10億台突破の見通し

【参考】世界の自動車生産予測 ～2016年



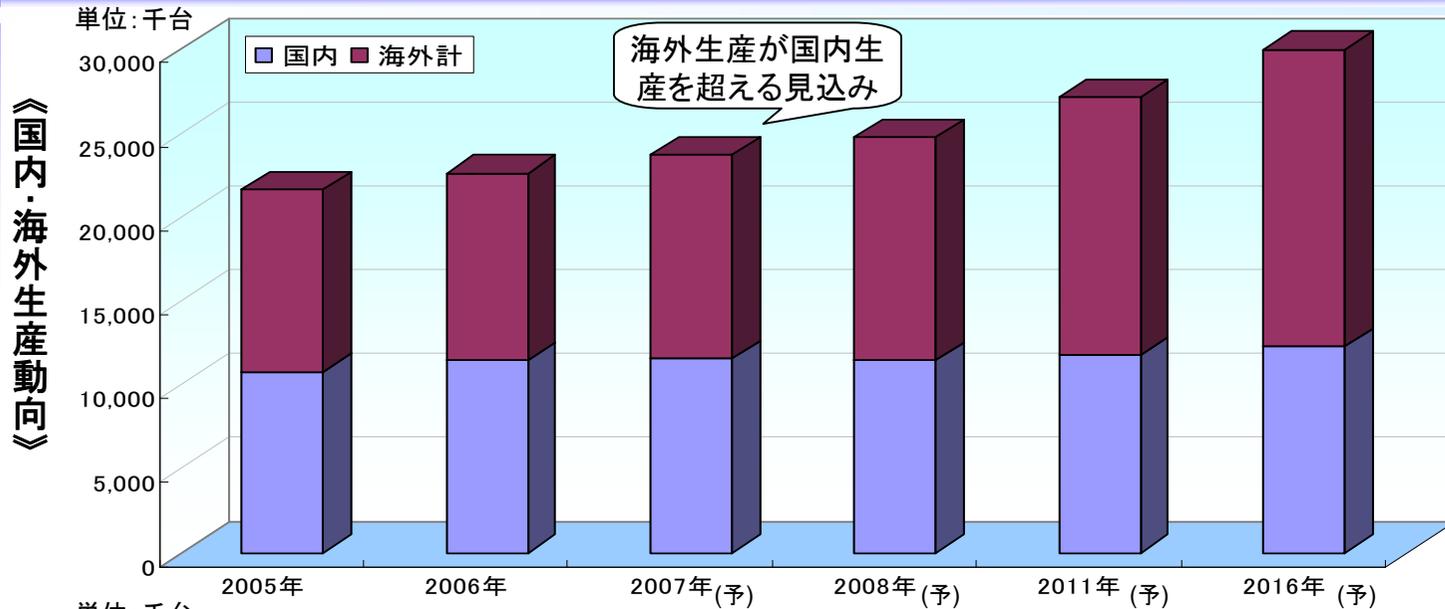
【世界全体予測】
台数ベースではアジアの存在が大きくなる。数字的には小さいが、中南米・東欧でも生産が増える見通し。



【アジア地域内】
中国の生産台数は変わらず大きい。しかし、インドでは'07比2.5倍と生産が大きく伸びると予測。

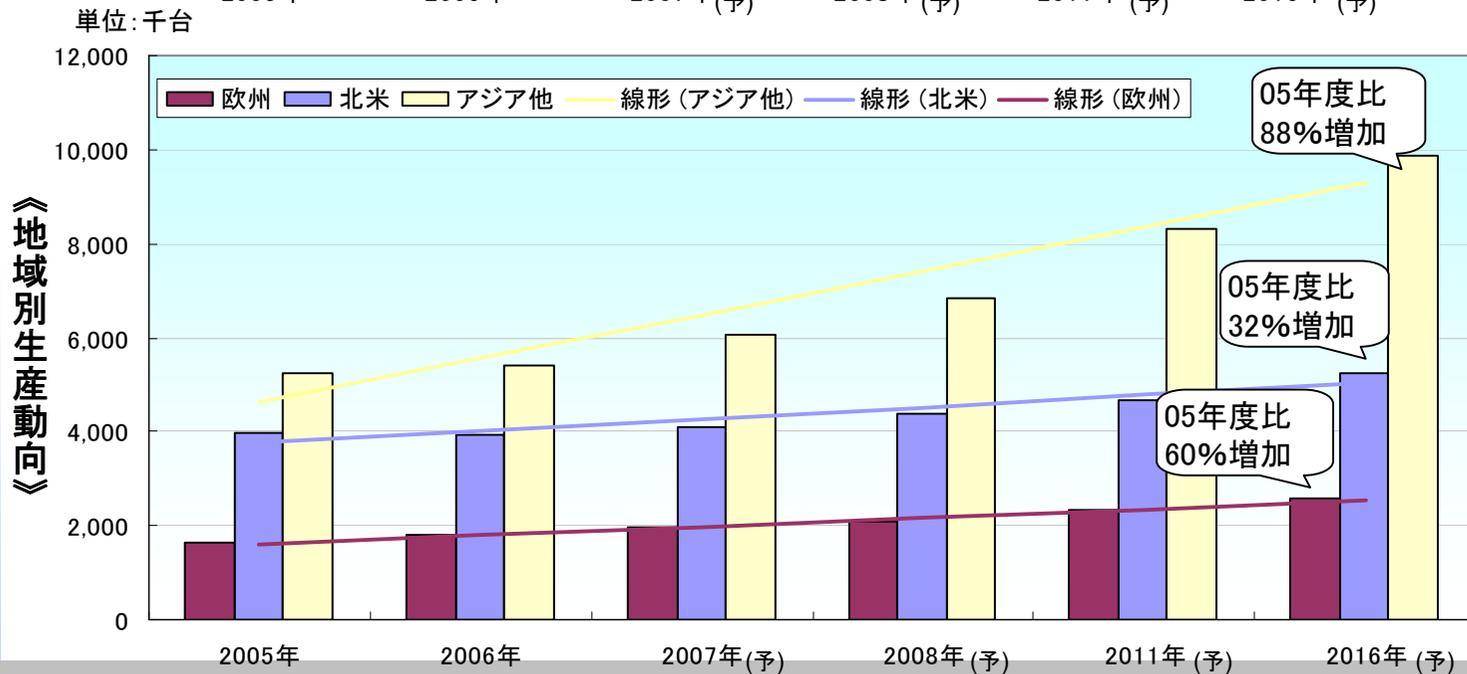
出所: (株)アイアールシー「世界自動車産業の生産・販売予測調査2007年度版」

【参考】日系自動車メーカー海外生産動向



【日系自動車メーカー】海外生産が国内生産を上回る見通し

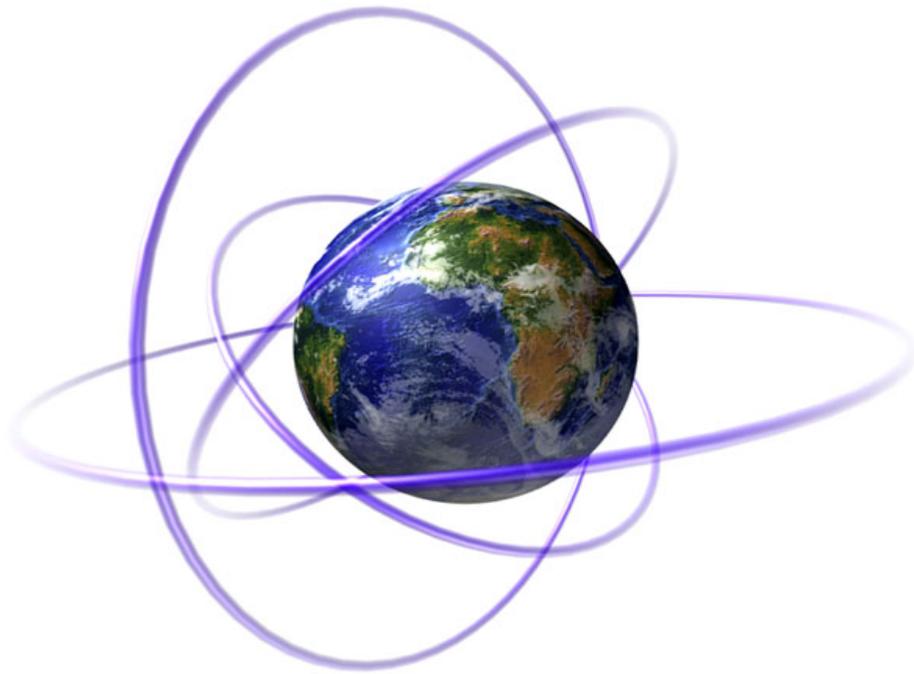
対象地域: アジア地域
なかでも、中国・インドが中心



日系メーカーの進出に遅れないよう、営業拠点・フォロー体制を整備

出所: (株)アイアールシー「世界自動車産業の生産・販売予測調査2007年度版」

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



当社ホームページ
のご案内

<http://www.eu.ebara.com/>